# 被災地派遣レポート＜第７２回＞

**建設局第四建設事務所　工事第二課　山田篤志さん**

## １．はじめに

私は平成 25 年１月１日から３月 31 日までの３カ月間、釜石市にある「岩手県沿岸広域振興局」に赴任しました。所在は、岩手県の沿岸南部に位置しており、東北新幹線の新花巻駅より、釜石線に乗り継ぎ、約２時間かかります。赴任前、岩手復興のために頑張ろうと心には決めたものの、３カ月間という短い期間で、入都２年目で知識も経験も浅い自分に何が出来るのかと、不安で一杯のまま東京をあとにしました。

## ２．職場について

私は土木部河川港湾課に属して、釜石市と大槌町の河川構造物・港湾施設の復旧事業に携わりました。当該課には平成 23 年６月から都職員が派遣されており、前任も同じ建設事務所から派遣された職員でした。メンバーは合計 24 名で、岩手県職員９名、派遣職員 10 名（東京都４名、静岡県５名、福岡県１名）、任期付き職員３名、臨時職員２名で構成され、土木部１番の大所帯となっていました。

派遣職員と臨時職員

## ３．釜石市・大槌町の被災・復旧状況

赴任当初は被災地の現状を知るために、様々な現場を回りました。震災より２年弱経過した町並みは、わずかに瓦礫が残っており、辺り一面はほとんど更地状態で建築物の基礎が残るだけでした。現地の人の話によると、被災前は多くの建物があり、町並みをつくっていたとのことですが、今は想像すらできない状態です。

本地域の沿岸部では、約 1m の広域地盤沈下をおこしており、防潮堤も倒れている様子が伺え、地震及び津波の恐ろしさを強く実感しました。

復旧状況は、道路の災害復旧は概ね終わってきており、河川・港湾の災害復旧が本格的に始動していました。毎日復興に向けて、町のどこかで重機の音がするといった状況でした。

釜石港 2010.3.19 撮影

釜石港 2011.3.29 撮影

釜石港 2013.3.12 撮影

## ４．業務について

派遣先では、工事の竣工検査に向けた整理、河道掘削や防潮堤の設計業務を担当しました。

防潮堤設計の具体的な箇所は、重要港湾に位置付けられている釜石港で、復旧方法は、地盤沈下した分の嵩上げと津波を考慮したT.P.＋6.1m 高での防潮堤の復旧です。

設計では、背面用地に工場やオイルターミナルがあるといった、現場に制約条件がある中で、陸上からの施工が困難と判断し、悩んだ末に海上からの施工としました。本工事は WTO 案件となり、スケジュールの都合で実際の発注は年度明けとなりましたが、設計図書は完成させ、一通りの土台は築きあげたと思っています。

工事の発注において最も印象的であったのは、復旧に向けて様々な工事現場が重複する中で、工事業者や地権者と調整を行いながら設計となりましたが、住民や工事業者の皆さんも被災者の１人ということもあり、工事に非常に協力的に対応してくださったことです。

しゅん功検査

防潮堤イメージ

また、鮭の放流や遡上に対して考慮した設計を行うことが必要というのは新鮮でした。

積算システムの使い方や事務処理方法を含め、初めてのことが多かったですが、岩手県や他県職員の方々の協力のもと、何とか業務を遂行することが出来ました。

## ５．生活について

仮設住宅での生活で、水道凍結といったレアな体験をしたのは貴重な経験でした。平日は、職場の方から飲み会等も積極的に誘っていただき、その場で県職員の方の復興に対する熱い思いを知ったときには、感動し、少しでも力になりたいという思いを強くしました。休日は、職場の方々とのドライブやスキー合宿参加と岩手ライフを満喫していました。中でも三陸の優雅な自然の美しさはおススメです。

三陸の絶景　鵜の巣断崖

## ６．おわりに

岩手県に派遣されて、強く感じたことは、被災した皆さんは誰よりも力強く生活していて常に前を向いていたことです。課長に「来てくれただけでもありがたい」と言われたのは印象的でした。今回の派遣は、出会いも含め私にとって大切な財産となりました。復興は短期間ではなかなか目に見えないものですが、１歩１歩着実に前に進んでいます。

最後となりましたが、派遣期間中にお世話になった岩手県の方々、暖かく送り出してくださった職場の上司や同僚の皆様に深く感謝申し上げます。今回の派遣で得られた貴重な経験、知識や多くの方々との人的ネットワークを今後の東京都における業務に活かせるように精進していきたいと思います。１日でも早い復興を心より願っております。